

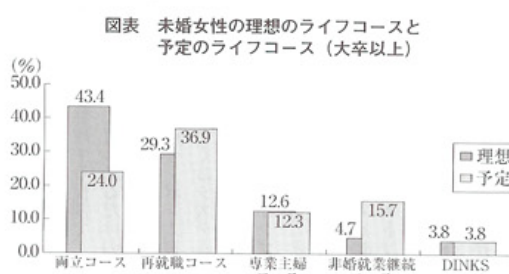
翌年就職したM重工業での仕事は、コンピューターにインプットするためデータの整理する役割で、ここでも私は、仕事に追われるだけの社員だったようです。

当時営業からカーボン式複写伝票の二枚目が回ってくるシステムでした。複写ですから一枚目と二枚目がずれた状態で記入されると、インプットデータにエラーが表示されることになりました。特定の営業マンの伝票によくマッチングエラーが生じ、その時点ですべてのオペレーションがストップします。

あの頃私に「問題形成力」があったら、3ヶ月に何枚何%の割合でエラーが生じたか、その原因は何が考えられるか、そのように思考する力があつたら、かなりのエラーを削減できていたはずでした。

S不動産へ転職した私は「ハウジングアドバイザー」という仕事でした。そこで私は、お客様との面談の中で

を捨てて何を大事にしてきたか」と質問をしていました。その時一人の方が「私は何も捨てませんでした。ただその都度、優先順位を変えたただけです」と、毅然として答えられたことが



図表 未婚女性の理想のライフコースと予定のライフコース (大卒以上)
出典：国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査」(平成17年)

拾った「お客様の声」、たとえば「壁紙がほすきる」「アンペアが低い」「和室が広い」などを、名刺大のサイズに書いて情報を収集することを覚えまして。そしてそれを収集整理するなかで、マンション購入者の「希望するマンション像」が見えてきたものです。目の前に流れてくる情報をいかに「収集・整理・分析・活用」するかによって、仕事がおもしろくなりました。そして、それまでの「仕事に追われる」状態から、「仕事を追いかける」快感を覚えまして。それは目からうろこの経験でした。

2・選択している頃の生き方

その後私は、昭和50年に社員教育の講師業をスタートすることとなります。4回目の転職でした。それから35年間、時に大きな感動に

強く印象に残っています。国立社会保障・人口問題研究所の未婚女性(大卒)調査(平成17年・図表参照)によると、理想のライフコースは「両立コース(結婚し子どもを持つが仕事も一生続ける)」が43・4%と最も高いのに、予定は24・0%と低くなっています。理想と現実異なるコースを歩むと考える人が多いことが分かります。「再就職コース」は、結婚・出産の時期に一旦退職し、子育て後再び仕事を持つことであり、「DINKSコース」は、結婚するが子どもは持たず仕事を一生続けることです。こうしたライフイベントによる選択の機会が多い女性にとって、冒頭にも申し上げましたが、選択期における「両立コース」の車線選択は人生を大きく左右します。

3・確立期の風景から得るもの

あなたが苦しみだした探索期、何を選ぶか悩んだ選択期を経て、ユングが「人生の正午」と言った40歳を迎える頃には、少しずつ何かが見え出してくるようになります。体力の衰えを感じたり、

とを長期的に捉える考え方もいいでしょう。時に学業に復帰することも長期的な視点から見れば意義のある生き方と思えます。そのような場合でも、必ず「働ける能力を持ち続けること」を忘れないでほしい。日頃からその研鑽だけは続けていたいただきたいと思えます。「人生は一生つづく学びの場」です。最近、俳優の小倉寛さんの言葉に思わずうなずきました。「自分に素直な選択をすれば気持ちはずっといいよ」

4・更なる夢を!

定年までの人生を教えたりしはじめる時期ですが、それだけに真剣に自分と向き合おうとする時期でもあるのです。私の場合、36歳で恵まれた子育てにかなり真剣に向き合っていたような記憶が鮮明です。そして仕事のほうは、子どもの学校行事にも参加したいと、フリーランスの立場を選びました。

しかし、物理的にはかなり少なくなつた時間で仕事に立ち向かったこの時期に、私は従来より「仕事力」を身につけたような気がしています。また多くの方々とのお交際のなかから、いろいろ支援をいただいたり、さまざまなお教養を素直に受けとめることが出来た記憶があります。真剣に対象と向き合うから「ホンモノ」に感動する大切さを知った時期でもありました。

車線変更をしても継続できるキャリアを

「キャリア」とは、何でしょうか? 木村周は、「何らかの意味で働くことを中核として人生を生きる」と定義しています。

私が人材教育コンサルタント会社で採用の面接担当をしていた日のことでした。新聞に掲載した「社員教育講師」募集広告に、100人くらいの応募がありました。また応募には履歴書だけを添付していた時代です。応募者のおひとり、A4のファイイルを持参していらつしました。表紙には「私の能力一覧表」とあり、短大を出て商社会社に勤務した6年間で身につけた「業務能力」を書き込んでありました。社内報を担当して修得した文章能力・情報収集能力・対人交渉

58歳からの大学生活

50代にさしかかった頃の私は、実は60歳になつたら仕事や身辺を整理して、過去の思い出をのんびり、自然を散策して過ごそうと、かなり具体的に計画を描いていました。そのあたりで、人生の折り合いがつくような気がしていたのです。

しかし60代が視野に入ってきた50代後半から、私の中に、今まで以上に積極的になりたいというパワーが宿り始めた。ずっと仕事を継続してきた自分のあり方がどうさせたのか、社会全体の長寿化傾向がその衝動を招いたのか、ビジネスにおける熱中が今まで以上に高まっていたのも事実です。80代になつてなお現役の先輩から「60代がいちばんいい仕事が出来た」と伺つたのも、大きな刺激になりました。それらが重なつて、私は人生も仕事も「今が旬」と思えるようになっていました。

法政大学に「キャリアデザイン学部」が新設されるといふ情報をつかんだ58歳の私は、迷うことなく学生の道を選択しました。そして学生生活が始まつてみると、十代の友人とのコミュニケーションも予想以上に楽しく、私の中に「若い心」が宿るのに長い時間はかかりませんでした。

58歳からの学びはひとつひとつが新鮮で、まさに「知っている喜びより知る喜び」を毎日、肌で感じていました。出張が多い仕事柄、授業に100%で臨むことは不可能でしたが、タイムマネジメントを自分で課して、仕事と学びの両立を果たすことが出来た4年間はあつたという間でした。

加えて、4年で学びを終えることが心残りならず、さらに2年間の大学院経営学部修士課程を修了しました。修士論文を提出した私は達成感で満たされ、以後の仕事へ自信とエネルギーも、倍加したように感じています。



●さかまき みわこ
女性の再就職力

東京都生まれ。法政大学大学院経営学研究所修士。大和證券、三菱重工、住友不動産を経て、75年株式会社MSC入社。85年より人材教育コンサルタントとして独立し、社員教育研究室を主宰。MBA・産科カウンセラー・キャリアカウンセラー。著書に「道草してキャリアデザイン」(西田書店)、「女性の再就職力」いくつになつても今が旬(北風堂出版)など。「30代」ワークライフバランスが大事と分かっていながら仕事中心。それでも平安神宮のしだれ桜ライトアップコンサートに今年も行くぞ!と春の訪れを待ちわび中。